



明けましておめでとうございます。今年もどうかよろしく願いいたします。

さて、2018年を迎えましたが、2015年12月のパリ協定の履行に向けて、日本を含む世界各国は、産業革命前からの世界の平均気温上昇を2100年までに2℃より十分低く保つことなどを目標にCO2などの温室効果ガス放出の大幅な削減に向けて動き出すことが求められています。日本は長期目標として2050年までに80%削減を掲げています。削減のための戦略としては二つあります。一つ目はできるだけ省エネに努めること、二つ目はできるだけ温室効果ガスを出さないエネルギー（再生エネルギーや原発によるエネルギー）に転換することです。省エネには、様々な新しい技術革新もありますが、できるだけエネルギーを使わないライフスタイルに転換するための努力あるいは価値観の変革が大事なことはいうまでもありません。二つ目に関しては太陽光・風力などの再生可能エネルギーを増やす選択とCO2放出が小さい原発利用を増やす選択があり、前者を進める環境省 vs 後者を進める経産省 という対立構造がずっと続いています。

福島での事故以来、再生エネルギー利用の声が大きくなったことは確かですが、政府としては原発維持の旗もまだ掲げつづけています。世界的にも再生エネルギー vs 原発エネルギーのせめぎ合いが続いています。原発は万が一の事故の問題に加え、使用済み燃料（放射性廃棄物）の処理が未解決であるという大問題があります。いっぽうで再生エネルギーは天候に左右されて不安定で、エネルギーの安定供給が難しいという問題が指摘されています。問題は暗礁に乗り上げているかのようです。

このエネルギー問題（+環境問題）を長期的な視点で抜本的に解決していくには、結局のところ、東アジア（日・中・韓+ロシア・モンゴル・北朝鮮）各国の相互信頼と協力にもとづくアジアの安全保障と平和の創出しかないと考えます。突拍子もない意見のようですが、実はヨーロッパ諸国は海底ケーブルを含めた電力網を作り、相互の信頼関係にもとづいた電力の融通をすでに行っており、パリ協定への対応も進めているようです。東アジアの電力供給の一環として、たとえば日本の高い技術を使ったメガソーラーシステムを日照時間が安定的に保障できるモンゴルや中国の乾燥地域に大々的に展開し、朝鮮半島経由で日本に送電することも不可能ではないはずです。ロシアも日本に送電することに高い関心を持っていると聞いています。現在の東アジアの政治状況からすると「何を夢みたいなことを」といわれそうですが、世界的な平和こそが地球規模でのエネルギー・環境問題の究極的な解決には不可欠です。（戦争は最大の環境破壊であり、また最大のエネルギー浪費でもあることは直観的にも理解できますね。）

地域から地球規模にいたる環境と社会の問題を解決しようとする国連の17のSDGs（持続可能な開発目標）（下図参照）でも、「平和」という目標が16番目に入っていますが、実はこの目標こそが他のすべての目標達成にとっても必須の前提条件ではないでしょうか。残念ながら、地球的な視点よりも国の利益を第一とする主張が、昨年来、一部の国と地域で強まっていますが、このような年にこそ、未来可能なアジアの「初夢」を皆さんと共に見たいと思います。



図：国連持続可能な開発（発展）目標（外務省 HP より）